

陸上部九州大会で躍進 男子フィールド総合1位

女子ハンドボール・女子柔道 県大会優勝

鹿南生 秋冬の活躍

【陸上】(九州新人戦) 男子フィールド総合1位 (個人) (男子走幅跳び) 4位 竹之内(二の八) (男子三段跳び) 2位 竹之内(二の八) (男子円盤投げ) 2位 田中(二の二) (男子棒高跳び) 2位 光(二の八) (男子ハンマー投げ) 8位 小川(二の八) 【水球】(九州新人戦) 準優勝 永池(二の八) など 【サッカー】(県新人戦) 2回戦敗退

山下(二の七) など 【女子柔道】(県選手権大会) (団体戦) 優勝 邊木園(二の八) など (個人戦) (48kg級) 優勝 小川(一の八) (52kg級) 優勝 森(二の六) (57kg級) 優勝 吉時(二の八) (63kg級) 優勝 邊木園(二の八) 【男子バレー】(県新人戦) 初戦敗退 松下(二の三) など 【女子バレー】(県新人戦) 準優勝 大迫(二の七) など 【男子バスケット】(県新人戦) 2回戦敗退 寺園(二の五) など 【女子バスケット】(県新人戦) 初戦敗退 谷迫(二の五) など 【女子ハンドボール】(県新人戦) 優勝 秋丸(二の七) など 【バドミントン】(男子団体) 初戦敗退 伊集院(二の五) など (男子ダブルス) 2回戦敗退 源川(二の二)・八木(二の七) ペア (男子シングルス) ベスト32 源川(二の二) (女子団体) ベスト8 田原(二の五) など (女子ダブルス) ベスト8 下村(二の七)・長渡(一の三) ペア (女子シングルス) ベスト8 野村(二の六) ペア 【フェンシング】(九州選抜大会) (男子団体) 3位 佐福(二の三) など (女子団体) 2位 吉松(二の八) など 【卓球】(鹿児島市大会) (団体戦) 5位 内園(二の四) など (ダブルス) 3位 加藤(二の三)・是枝(二の三) ペア (個人戦) ベスト8 是枝(二の三) 【男子ソフトテニス】(県新人戦) (団体戦) ベスト4 瀬戸口(二の二) など (個人戦) ベスト32 濱上(二の六)・福森(二の八) ペア 【女子ソフトテニス】(県新人戦) (団体戦) ベスト4 脇田(二の六) ペア など (シングルス) ベスト32 宮下(二の七) 【野球】(秋季大会) ベスト8 日高(二の八) など 【弓道】(市秋季大会) 男子団体優勝 (県選手権大会) (男子団体) 優勝 (県選抜大会) (男子団体) 4位 霜出(二の二) など 【剣道】(県新人戦) (男子団体) 初戦敗退 小川(二の七) など (男子個人) 2回戦敗退 鮫島(二の六) など (女子個人) 2回戦敗退 下吉(二の五) など 【ソフトボール】(県新人戦) 初戦敗退 東條(二の七) など 【書道】(県高校書道展) 準大賞 福田(二の二) 高文連賞 矢越(二の五) (県高校揮毫大会) 高文連賞 福田(二の二) (県書道展) 南日本書道会賞 矢越(二の五) 県書道会賞 福田(二の二) 【美術】(県高校美術展) (彫刻部門) 秀作賞 山口(二の二) (デザイン部門) 秀作賞 英(二の二) 【吹奏楽】(JBSAソロアンサンブルコンテスト鹿児島大会) (アンサンブル部門 打楽器四重奏) 銀賞 中島(二の三) など (ソロ部門クラリネット) 銀賞 永山(二の三) 【新聞】(全国高校新聞コンクール) 奨励賞 米山(二の七) など 【演劇】(地区大会) 優良賞 伊地知(二の二) など

世界2位 鹿南生パリに舞う



演技終盤のスタンツを成功させ、会場からは拍手喝さいが贈られた。IIパリ デイズニールドリソートパリス

鹿児島市のチアリーダーティンクのジュニアクラブである「ピックサンダース」が、この大会には、本校の中村綾さん(3-2)と西野那奈さん(3-6)が出場した。世界16か国から約100チームが出場するチアの大舞台の高校生レベル(レベル4)に出場7チーム中2位に輝いた。

二人はチームの最上級生で要のプレーヤーであり、20名の大会所帯を指導しながらも、自ら難易度の高い技を次々に成功させチームの入賞に貢献した。チアリーダーは、2分30秒の制限時間内にダンス、タンブリング、スタンツなどの様々な要素を組み入れて総合得点で競う。「外国人のパワフルな演技や大きな体格に驚きましたが、自分たちらしく楽しく演技できました」と西野さん。中村さんは「全国大会出場を目標にしてきたので、国際大会で上位入賞できてうれしい。いろいろなアクシデントもありましたが、楽しんで臨むことができました」と振り返り、



世界2位を喜ぶメンバー。左から二番目が西野(3-6)、三番目が中村(3-2)

返った。二人とも小学校低学年から同じチアリーダークラブに所属。お互いに励ましあいながらバック転や宙返りなどの技を10年間磨いてきた。「演技中に顔を打たされた。青春をチアで完全燃焼した充実感にじんんでいた。ピックサンダースには現在、幼稚園以上の女子が約30名所属している。2人に続いて、後輩たちがまた世界の舞台上で活躍する日も遠くないだろう。」

【書道】(県高校書道展) 準大賞 福田(二の二) 高文連賞 矢越(二の五) (県高校揮毫大会) 高文連賞 福田(二の二) (県書道展) 南日本書道会賞 矢越(二の五) 県書道会賞 福田(二の二) 【美術】(県高校美術展) (彫刻部門) 秀作賞 山口(二の二) (デザイン部門) 秀作賞 英(二の二) 【吹奏楽】(JBSAソロアンサンブルコンテスト鹿児島大会) (アンサンブル部門 打楽器四重奏) 銀賞 中島(二の三) など (ソロ部門クラリネット) 銀賞 永山(二の三) 【新聞】(全国高校新聞コンクール) 奨励賞 米山(二の七) など 【演劇】(地区大会) 優良賞 伊地知(二の二) など

1本の重み知り 全国制覇ねらう

弓道部

最近全国級に躍進している弓道部。全国制覇に向けて気合十分だ。



鹿児島県選手権大会で男子団体が優勝し、全国大会への出場を果たすなど、近年活躍がめざましい本校弓道部。今回は、部活動の様子を少し見学させてもらい、部長の霜出直哉君(2-1)と笠野百伽さん(2-3)から話を聞くことができた。現在、男子9名、女子14名の23名が所属しており、普段1号館芸術棟と理科棟の間にある弓道場で活動している。活動中の弓道場をのぞいてみると、一射一射に集中する部員たちによって生み出される張りつめた雰囲気や、緊張感が伝わってきた。私語はなく、的中したときに全員で「よしっ」というのはつらつとした声だとして拍手で応援する。このような緊張感のある練習は、「練習では試合のように、試合では練習のように」というモットーを部員全員が共有し実践しているからできること。全国選抜大会での一本の的中で惜しくも決勝トーナメント進出を逃した経験など

「一本の重み」を肌で感じてきた数多くの経験から生まれる緊張感が練習にも満ちている。個人での技術の向上にも余念がない。時には、立ち姿をビデオやタブレットで撮影し、自分の姿勢の弱点を探して改善していく。その際、自分自身と比べて向き合えるかが弓道の上達の分かれ目だという。弓道部員が見せる一射は、日々の精神力と技術の鍛錬の賜物なのだ。凛とした立ち振る舞いで的に向かう姿が美しい部員たち。ただ的中させるだけではなく、すべての動作に無駄のない緊張感が満ちている。こうした所作は、日頃から大切にしている「礼節」から生まれているという。こうした礼節を身につけることができるのも弓道の魅力の一つだろう。

普段は、先輩後輩で教えあうコミュニケーションを大切にしているだけあって、休憩時には和やかな雰囲気がある。自主練を行う意欲的な部員も多く、これからの活躍が期待される。これからは、男女団体が全国大会出場を目指し、出場に満足するだけでなく「全国制覇」を目指したいとのこと。ますます目が離せない部になりそう。



普段(まきわり)練習で、鏡に自身を映しながら射形を確認する。

